

時代小説と江戸・深川①

時代小説とは

江東区深川江戸資料館

今も多くの人に読まれている『鬼平犯科帳』の作者池波正太郎は生前、「時代小説は早晚滅びるだろう」とよく口にしていたそうです。しかし、池波の没後25年以上たった今でも時代小説は人気を集め、どの書店でもそのコーナーを見かけます。

そこには、タイトルに「深川」の文字が入っている作品を多数見つけることができます。池波正太郎・山本周五郎・平岩弓枝・佐伯泰英などの作品には、舞台として深川が多く登場します。また、深川で生まれた宮部みゆきや深川に暮らす山本一力など、ゆかりの作家もいます。

天保年間(1830～1843)の江戸深川の暮らしを再現した深川江戸資料館の常設展示室は、まさに時代小説の世界そのもので、多くのファン、研究者、作家などが訪れていて、その中には、藤沢周平や司馬遼太郎などもいます。

資料館ノートでは、今号より6回にわたり「時代小説と江戸・深川」のテーマで、時代小説の世界、深川とのゆかり、その背景となる江戸庶民の暮らしなどを紹介していきます。

1. 時代小説とは何か

時代小説の源流は、明治時代に人気のあった講談を記録し書籍化した速記本にあるといわれています。

その後、大正2年(1913)から新聞に連載された、中里介山の『大菩薩峠』が時代小説の嚆矢と一般にいわれ、大正6年(1917)から雑誌に連載された岡本綺堂の『半七捕物帳』と共に今日の時代小説の礎を築きました。

(1) 大衆文学としての時代小説

近代以降、小説を主として、個人主義的考えのもと、純粋な芸術を指向する純文学に対して、より広汎な大衆の興味に訴えるものとして大衆文学という言葉は関東大震災後に生まれました。そこには、時代小説、探偵小説(現在のミステリー)、科学小説(現在のSF)などが含まれます。



「本所深川ふしぎ草紙」 宮部みゆき
平成7年(1995)
新潮文庫
装丁 藤田新策

因みに、現在でも大きな話題となる文学賞の「芥川賞」は純文学作品、「直木賞」は大衆文学作品が元々は対象とされていました。ただ、現在ではあまり境界が無くなっているといえます。

(2) 歴史小説と時代小説

時代小説と歴史小説の別はなかなか難しい点ですが、一般に歴史上の事件や人物など史実に重きを置くものを歴史小説。時代の設定を生かし作者の思いを展開し、虚構に重きを置くものを時代小説としています。文芸評論家の縄田一男は、「歴史小説は作者の歴史観が、そして、時代小説は作者の物語作家としての技量が問われる小説といえるかもしれない。」と述べています。

資料館ノートでは、両者を合わせて時代小説と捉えることとしたいと思います。また、時代小説の題材となるのは、江戸時代以前という広範囲になりますが、ここでは江戸時代を中心に考えていきます。

2. ジャンルで見る時代小説

大衆小説としての時代小説は、その扱う範囲も広い物です。ここでは、いくつかのジャンルに分けて、その代表的な作品とともに見ていきます。

(1) 捕物帳

捕物帳の始まりは岡本綺堂の『半七捕物帳』といわれています。そこには、犯人探し・謎解きとしてのミステリーの部分とその背景にある江戸の風俗が書かれています。『半七捕物帳』のほか、佐々木味津三の『右門捕物帖』、野村胡堂の『銭形平次捕物控』が三大捕物帳といわれています。

また、横溝正史『人形佐七捕物帳』、松本清張『彩色江戸切絵図』、宮部みゆき『震える岩 霊験お初捕物控』などミステリー作家が多く手がけているのが特徴です。

現在でも大変な人気がある、池波正太郎の『鬼平犯科帳』、平岩弓枝の『御宿かわせみ』なども捕物帳の手法を駆使した作品です。

(2) 剣豪物

講談の流れの中から生まれた、主人公が剣をたよりに活躍し・成長していく物語で、魅力的なヒーローたちが登場します。

中里介山の『大菩薩峠』の机竜之助は音無しの構えの使い手のニヒルな剣士。林不忘の『新版大岡政談』の丹下左膳は隻眼隻手の剣士です。また、求道者としての吉川英治の『宮本武蔵』、武蔵のライバルで



「長谷川平蔵市中見廻りの図」
池波正太郎画
池波正太郎記念文庫所蔵

もある村上元三の『佐々木小次郎』。柴田錬三郎の『眠狂四郎無頼控』は混血の主人公、川口松太郎の『新吾十番勝負』は主人公葵新吾が、諸国を旅しながら剣の修行をしていく物語です。

池波正太郎の『剣客商売』、藤沢周平の『用心棒 日月抄』などもこのジャンルの作品です。

(3) 忍者物

伝記ロマンの色合いが濃く作者の創造性が自由に展開されるジャンルで、昭和30年代にブームとなりました。

山田風太郎の『甲賀忍法帖』、村山知義の『忍びの者』、司馬遼太郎の『梟の城』などの作品があります。

(4) 股旅物

庶民生活の枠に縛られないアウトローの世界に生きる流れ者たちを主人公にした物語で、捕物帳と共に時代小説の二大ジャンルともいわれています。

劇作家でもある、長谷川伸の『沓掛時次郎』『瞼の母』や子母沢寛の『弥太郎笠』、映像化もされた笹沢左保のクールなヒーローを描いた『木枯し紋次郎』などの作品があります。

また実在した俠客である、清水次郎長や国定忠次も人気で作品化されています。

(5) 市井物

江戸に生きる庶民の喜怒哀楽などの暮らしぶりを描くジャンル。設定は江戸時代ですが現代につながる生活・人情などを描く作品も多く、今の時代小説の活況を支えています。

深川江戸資料館の常設展示室に再現されている長屋はまさしく市井物の舞台といえるのではないのでしょうか。また、深川を舞台とした作品も多くあります。

山本周五郎の『人情裏長屋』『さぶ』などの作品や藤沢周平の『橋ものがたり』『驟り雨』。また、北原亜以子の『深川濡通り木戸番小屋』や山本一力の『あかね空』などの作品があります。

これらの作品を読んで、深川江戸資料館の展示室をまた違った視点で楽しんでみてください。

(主な参考文献)

「小説と時代」尾崎秀樹

『名作挿絵全集』所収(平凡社/1980)

縄田一男『時代小説の読みどころ増補版』

(角川書店/2002)

大村彦次郎『時代小説盛衰史』(筑摩書房/2005)